

2025年2月8日配布

第364回山口西田読書会（＝2025年2月1日開催分）の Protokol

唐露記

1、テキスト

「左右田博士に答ふ」「五」の第3段落312頁7行目「真の認識主観は思惟と広義における直覚との統一」から313頁後ろから2行目「尚対象的意義を出し得たといふことはできない。」まで。

2、キーセンテンス

「意識の背後には何物をも考へられない、何物かの上に立つならば意識ではない、意識は何處までも直接でなければならぬ。何らかの意味に於いて対象化せられたものは意識ではない、…我々に真に直接なる反省的意識は、かゝる意味における作用的なるものをも越えて、無限に深い奥に還らねばならない。」(313頁3行目～11行目)

3、問い

フィヒテの場合、認識主観（自覚）は形而上学的に実体化・対象化されたものであるから、それにおける「反省」が対象化されたもの（作用）になってしまう。その意味で、西田は「真に直接なる反省的意識」は対象化の方向ではなく、「無限に深い奥」への還帰、即ち「内在的超越」を主張している。そのことはどう考えるか。（フィヒテの場合、見つめ描く自分と描かれたものとの間に間隙があるように思う。誰の自己でもなく、誰の自己でもある自分と他ならぬ自分とは常に一致しない。西田がいう「無限に深い奥」へということはどうのようにそれらの一致を可能するのか。）